

平成23年度病害虫発生予察情報 特 殊 報 第 1 号

平成23年5月24日
岩手県病害虫防除所

スグリコスカシバの発生について

1. 発生状況

- (1) 県南地域で栽培されているクロスグリ(カシス、クロフサスグリ) *Ribes nigrum* L で枝上の芽の枯死、新芽の発芽・生育の著しい不良、枝の折損や枯死などの症状が見られた。枝内から乳白色の幼虫が発見され、25℃条件で飼育したところ小型のスカシバ成虫が得られた。
- (2) 農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、スグリコスカシバ *Synanthedon tipuliformis*(Clerck)であることが判明した(同定者;元名城大学教授 有田 豊 氏)。本種の発生確認は、北海道、青森県に次いで3例目である。

2. 形態と生態

(1) 形態的特徴

成虫：前翅を開いた長さは、雄で16～19mm、雌で18～21mm、前後翅とも透明。腹部は黒褐色で、細く黄色い帯を持つ(図1)。

幼虫：体長は老齢幼虫で11mm内外。乳白色で頭部は赤褐色(図2)。

蛹：体長10～12mm。体色は褐色。



図1 スグリコスカシバの成虫



図2 スグリコスカシバの幼虫

(2) 生態

発生は年1回。2年枝以上の枝の表面に褐色でやや平たい楕円形の卵を1粒ずつ産み付ける。孵化した幼虫は、加害植物の枝内に侵入、食害し空洞となった枝内の一部におが屑状の枝組織を充満させ(図3)、その被害枝内で越冬する。春期に蛹化し、枝に開けられた脱出口から蛹の体半分を露出させ(図4)、羽化する。成虫の羽化時期は北海道では6月中旬～下旬、青森県では6月初め頃とされている。

5月17日に県南現地ほ場を調査したところ、一部被害枝内で蛹が確認されたことから、本県の県南部における羽化は5月下旬頃であると推測される。



図3 被害枝の内部



図4 脱出口から露出した蛹
(抜け殻)

(3) 寄主植物

フサスグリ *Ribes rubrum* L.、クロスグリ *Ribes nigrum* L. での加害が確認されている。国外では *Ribes* 属他種に加え、ニシキギ科の *Euonymus europaea* での加害も知られる（岩崎・有田(2008)）。

3. 防除対策

- (1) 現在、本種に登録のある薬剤はない。
- (2) 被害が確認された場合、成虫羽化前(本県の場合は概ね5月下旬)までに被害枝や剪定枝を園外に持ち出し、粉碎するなど処分を徹底する。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX (68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう